

創刊特別寄稿

疾風怒濤に揉まれて来た心理学

中谷和夫



1967年 文学部人文学科入職, 1971年 同退職,
1994年 文学部人文学科入職, 2005年 文学部心理学科退職
専門領域: 認知・数理心理学

NHKの「懐かしのメロディー」で「恋の季節」を今陽子が歌っていて、心理学の1期生でゼミにいつも青いシャツを着て出席していた学生を思い出しました。その後、「ゲゲゲの女房」で朝の連続ドラマが久しぶりに人気だということで、熊倉一雄の「ゲゲゲの鬼太郎」が続きました。専修大学に文学部が創設され、心理学コースが出来たのはこの時代だったのだと懐かしく思いました。

「歌は世につれ、世は歌につれ」と言いますが、心理学も時代の潮流と深く結びついて展開してきたことを、意外な契機から再認識しました。心理学にはいろいろな流れがありますが、ようやく日本の心理学にも情報処理革命とか認知革命の波が伝わってきつつあり、心理学という言葉に代えて行動学あるいは人間行動学などを好む傾向が現われたりしていました。

僕は昭和42年4月に新設の文学部へ専任講師として着任したのですが、その前から重松毅先生と金城辰夫先生が構想を練り、準備を進めていらして、心理学教室の研究と教育の大枠は整っていたようです。

学生は1年から少しずつ心理学実験に触れ、データの解析法を学ぶこと。ゼミと心理学研究法を学び、自分で問題を発見できるようになることを重視し、4年になったら自ら選んだテーマで実験や調査を行って卒業論文を書くこと。

そしてスタッフは、パーソナリティと脳波の関係を軸として、神経心理学・学習心理学・人格心理学を統合した実験的研究に共同で取り組むということでした。

この共同研究のテーマにはアイゼンク等の優れた先行研究が参考になりました。このプランに沿って、学生たち全員が授業と並行して心理検査を受け、脳波計測の被験者になりました。こうして実験心理学と臨床心理学の基礎を学ぶという伝統が築かれたのでした。

当時はゼミと言えば原書講読のことで、学生が分担しながら訳すのが一般的でしたが、僕のゼミではアイゼンクによる「心理学の効用と限界」などの邦訳書を資料としました。

新制大学で卒業の条件として卒業論文を書かせるのは無理ではないかと考える風潮が出たりしていて、代わりに特別演習を課すところがあったりしましたが、学生たちはよく卒業研究をこなしており、われわれも驚くほどでした。

新設の実験室の目玉は脳波室で、文科系の学部には当時としては珍しい新鋭の脳波計と分析機が導入されました。心理は金食い虫だと嘆く理事もあったかと思います。河内十郎さんが脳波の計測をし、僕は分析機による相関分析やスペクトル分析を担当しました。

脳波がどのように生じるかもまだ明確でなかった時代に、相関分析機があればこそその興味深い知見が幾つも得られ、学会発表には毎年スタッフ全員で出かけたりしたものでした。

大学へ入って心理学の講義を受けた学生が最初に聴くのは「心理学の過去は長いが、歴史は短い」ということだと思います。心理学を専門科目として選んだ学生のなかには、心理学に実験があることを知って驚いたひともあったかもしれません。

医学部の学生が初めて自分でメスを持って解剖するのに比べれば、心理学の初級実験演習は大仰に通過儀礼とまでは言えないでしょう。しかし同級生を被験者にして自分で採った実験データの統計処理をするという実験演習の作業に学生たちは少なからず戸惑い、やがて慣れ、そして専門科目としての心理学を理解できたのだと思います。

パソコンどころか、電卓も無かった時代でした。平均や分散を計算する卓上計算機1台を学生の図書室に備えて、皆で使っていました。当時の金額で30万円くらいしたと記憶しています。その後、マイコンとかパソコンとかが現われて今日に到るのですが、技術革新と高度成長の波に乗って、実験そのものも遂行し、どんな統計処理もこなし、レポートまで書いてくれるパソコンが次々に開発され、しばらく後には同じ程度の金額で普及したということは、考えてみれば有難いことでした。

振り返って見れば、大学も、それを取り巻く社会も、常に激動の中に有りました。僕は5年ほどして後に、京都大学へ移り、東京大学へ変わり、その間20年余りして、修士課程に継いで博士課程の大学院ができるということで、再び専修大学へ戻りました。

文学部創設当初からいらしたスタッフの顔も何人かあり、古巣へ戻った印象はどうですかと声を掛けられたりしました。何も変わっていないという感じがしたりもしました。しかし建物が増え、その間を動き回る学生数数も顕著に多く、教職員の顔ぶれや考え方は明らかに変わっていました。

心理学科は同じ建物の同じフロアにあり、部屋数は多くなっていましたが、その殻に収まりきらないほど大きく成長していて、まさに爆発するばかりになっていました。

心理学コースとして発足した当時、行動主義心理学は既に成熟期に有り、ようやく情報処理アプローチを軸とした認知主義が成長しつつありました。以来、心理学は脳科学と認知科学の疾風怒濤に揉まれて今日に到っており、われわれの心理学教室はその王道を進んできたのだと思います。